

JPBA 全卸連プレゼント JPBA SSS Cup 2020

11月21～22日
東京ポートボウル



男子 永野すばる 女子 姫路麗

ともにAPAに続く 2試合連続V!

“シニアスポーツサポート”を掲げて昨年誕生した全卸連プレゼント「JPBA ☆ SSSカップ」も、コロナ禍で今年は開催が危ぶまれたが、昨年とほぼ同じ50社以上の企業が協賛に名を連ね、万全の感染予防策を講じて無事開催された。11月7日に終了した「APA PRESENTS KING'S & QUEEN'S」を優勝した男子・永野すばる、女子・姫路麗が、ともに2大会連続優勝という珍しい記録で幕を閉じた。(主催：全卸連／(公社)日本プロボウリング協会)

予選6G、準決勝6Gの12Gトータルの上位男女各6名が決勝へ進んだ。今年も予選前半の3Gでは、男子プロと女子シニアアマ、女子プロと男子シニアアマが組んでのダブルス戦が行われたが、斉藤琢哉と西村則子選手組、川崎由意と西脇昌紀選手組がそれぞれ優勝した。

男子

大接戦だったが、1週前のAPAを制した永野がトップシードを獲得、2位以下には太田隆昌、斉藤祐哉、山本勲、斉藤琢哉とサウスポー勢が続く。準決勝の1G目に300を出した甘糟翔太が6番目の座を占めた。

4位から6位通過者によるシュートアウト1stマッチは、259を打った甘糟が、7フレからオールウェーの山本を振り切り勝ち上がった。その甘糟と2、3位通過の2人によるシュートアウト2ndマッチは、10フレ勝負となったが、太田がディフェンディングチャンピオンの斉藤祐を4ピン差退けて優勝決定戦に進出した。

永野と太田の優勝決定戦は、永野が先に5フレのストライクをダブルへつなげると、太田も6フレからストライクをつなげて追走。永野が1マークリードのまま迎えた10フレ、「力んでしまった。スプリットにならなくてよかった」と振り返った先投げの永野の1投目は、厚めで④を残す9本カウント。対する太田の投球は、ブルックリンのストライク。もう1発くれば逆転の太田だったが、⑥を残す9本カウント。永野がスペアのあと9本で、238:237と1ピン差で退け、2週連続の優勝で、



▲KUWATA CUP2019に続く準優勝の太田「KUWATA CUPは、あの舞台でしかも桑田さんの大ファンということもあって舞い上がってしまった。それに比べ今回は集中力も気合も維持できたけど…」と、またも初優勝に届かず

通算タイトルを5とした。

永野のコメント

APAの予選、準決勝がここ(東京ポートボウル)だったので、コンディションは変わっても、各レーンの癖が同じだったので、その記憶が役立った。優勝決定戦は、右が10フレになるようにレーン選択をしたけど、スタートしたら右が行かなくなってボケ始めたので、選択を失敗したかなと思った。本音はもう少し楽な展開で勝ちたいけど、APAもそうだったし、楽な優勝はないんだと改めて思った。(優勝ボール: STORMコード・ダイナミック)

女子

予選から安定した内容の堀内綾が2772の1位、以下姫路麗、大嶋有香、久保田彩花、桑藤美樹、秋光楓までの6名が決勝に進んだ。

シュートアウト1stマッチは、なかなかストライクが続か

なかった桑藤と秋光を尻目に、3フレからフォースで抜け出した久保田が勝ち進んだ。2ndマッチは、先行する姫路が9フレ⑦をカバーミスで、久保田に逆転のチャンスが訪れたが、その9フレは⑩タップで、236の姫路が9ピン差で退けた。

優勝決定戦は、堀内が1フレ⑩をいきなりカバーミスに対し、姫路はターキースタートで優位に展開。堀内も5フレからターキーで食い下がるが、続く8フレは⑩タップ。これをスペアミスで万事休す。「準決勝まではイーゾーミスはゼロだったのに…」と堀内。緊張感からか、女王・姫路を相手に2つのミス

を犯しては勝ち目はなかった。247:194で制した姫路が、永野とともに2大会連続優勝で、通算24勝と伸ばした。

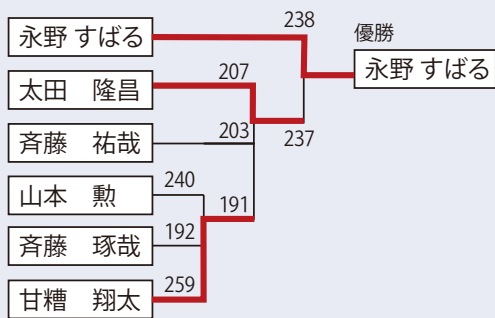
姫路のコメント

3・4位決定戦の9フレ、(久保田) 彩花ちゃんがストライクを続けてきていたので、一瞬計算をしたら、⑦ピンをミスしてしまった。それ以降は、勝敗に気をとられず、投球に集中するようにした。メンタルが強いわって思われがちだけど、私は弱いんです。APAのときに改めて痛感しました。今回が40回目の優勝決定戦だったけど、毎回ガタガタ震えるんです。(優勝ボール: BWアッパーカット)

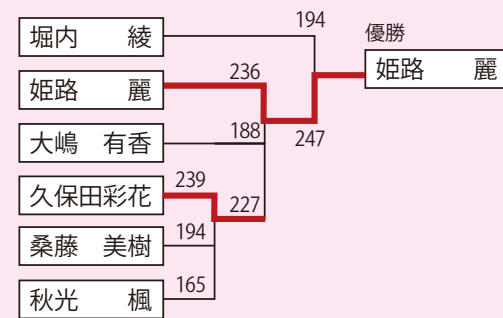


▲2019年の2月に男の子を出産。ママさんプロの堀内「復帰後最近になってやっと体が動くようになってきた感じ。トップシードでこのチャンスを生かしたかったけど、ふがいない内容で悔しい」と涙

●男子決勝シュートアウト



●女子決勝シュートアウト



朗報! KUWATA CUPが開催に向け再始動

今年2月、新型コロナウイルス感染拡大の余波を受け、本大会2日前に開催中止が決まった「KUWATA CUP2020～みんなのボウリング大会～」が、“withコロナ”の現状に則した競技参加形式を取り入れ、「KUWATA CUP2020→2021」として開催に向け再始動することが決定。11月17日、同大会の公式サイト上でアナウンスされた。

仕切り直しの2020→2021大会では選手のWEB登録システムで可視化し、その時点での全国順位が把握できる仕組みを

構築する予定だ。また、2020本大会への出場が確定していたアマチュアボウラー(ハウスボール使用)部門・競技ボウラー(マイボール使用)部門の選手には、部門ごとに一定のシード権が付与されるという。

同大会の実行委員会は、21年1月上旬に大会の詳細を発表し、同月中旬には予選会がスタートできるように鋭意準備中とのこと。ボウリングをこよなく愛する大物アーティスト・桑田佳祐氏が旗振り役を担い、世間的にも大きな話題となったKUWATA CUPの再始動は何よりの朗報。



▲[KUWATA CUP2019]決勝大会の会場風景(19年2月10日、渋谷ヒカリエホール特設レーン)

コロナ禍は、感染拡大の第3波到来で予断を許さない状況だが、年末年始に向けて収束に向かい、無事開催にこぎ着けることを祈るばかりだ。